

大分大経済学部が100周年式典

一層の飛躍を誓う

【大分】大分大経済学部（大分市日野原）の創立100周年を記念した式典が25日、同市高砂町のいいち

こ音の泉ホールであった。関係者約350人が出席。功労者をたたえ、節目を期に一層の飛躍を誓った。



あいさつする大分大経済学部の高見博之
学部長＝大分市のいいちこ音の泉ホール

同学部と学部同窓会「四極会」がつくる記念事業実行委員会の主催。北野正剛学長が「発展を支えてきた皆さんの努力に敬意を表したい」と式辞。高見博之学部長が「グローバル化する社会の中で世界を見通すことができる力を養う教育を進めてきた」、四極会の石川公一会長（当時）が「これからも地域でキラリと光り続けてほしい」とそれぞれあいさつした。

100周年記念事業や学業に貢献した個人、法人に

感謝状を贈った。

実行委によると、同学部の前身に当たる大分高等商業学校は1922年に開校。44年に大分経済専門学校と改称し、戦後の49年に現在の形となった。これまで2万人以上の卒業生を社会に輩出。知の拠点、人材育成・供給の場として地域に欠かせない存在となっている。

（指原祐輔）